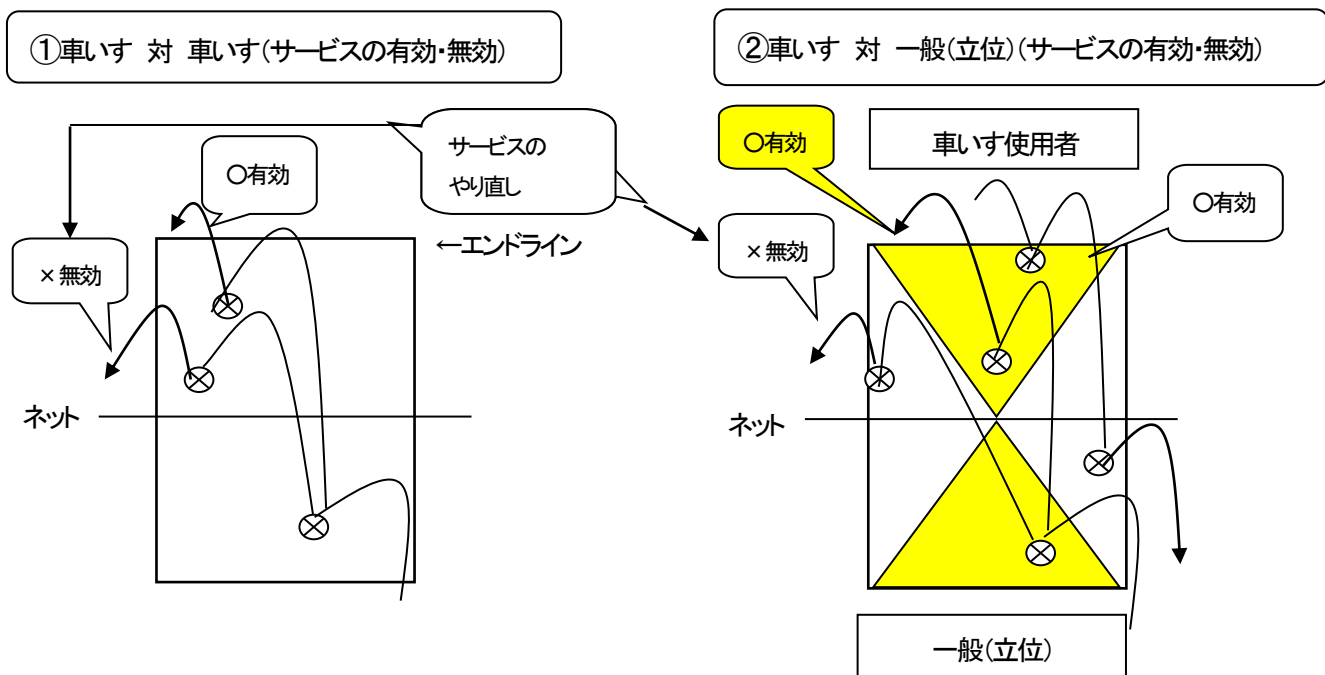


松山市長杯障がい者卓球大会ルール

※一部公式ルールと異なる場合があります。

[一般Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ]

- 1 トーナメント方式による11点先取5ゲームマッチで行う。(3ゲーム先取した方が勝ち)
 - 2 デュース(得点が10対10になって、それ以降)は2点連続先取で勝ち。
 - 3 サーブ権(サービス)は2本打つごとに交代する。デュースの場合は1本打つごとに交代する。
 - 4 最初のサービスは、ジャンケンの勝者とし、1ゲームごとに交代する。
(例)Aさんがジャンケンで勝った場合。
 - 1, 3, 5ゲーム目はAさんのサーブでスタート
 - 2, 4ゲーム目はBさんのサーブでスタート
 - 5 サービスは、自分が打った後相手が打ち返す前にボールが自コートに1回、相手コートに1回触れなければならない。(ラリー時は相手コートに1回でよい)
 - 6 車椅子使用者のサービスは、エンドラインを正規に通過するもの以外はレット(ノーカウント)とする。
※ただし、そのボールを相手がレシーブしたときは有効
 - 7 車いす対一般(立位)の場合、一般(立位)の方が車いす使用者に対して、サービスを行う場合のみ、自コートの三角形に1回(※)、相手コートの三角形内に1回触れなければならない。車いす使用者がサーブする場合は、この限りではない。
(※ラリー時は相手コートに1回でよい)
- 車いす対一般(立位)の試合前に、審判が選手にサービスルールを確認するものとする。



- 8 ライン上のボールは有効とする。
- 9 使用球は白色で、40mmの公式サイズとする。
- 10 ラリー中、何らかの事情によりやむを得ずプレーを中断する場合は、審判の判断によりノーカウントとする。

(例) ・他のテーブルからボールが転がってきて、プレーを続行すると怪我をする恐れがある場合。
・他の選手、その他の関係者と接触してプレーに支障をきたした場合。

- 11 1ゲーム毎にチェンジコートを行う。

※フルセット(5ゲーム目)はどちらかに5点入った時点で1回のみチェンジコートを行う。

[サウンドテーブルテニス (STT)]

- 1 トーナメント方式による11点の3ゲームマッチで行う。(2ゲーム先取した方が勝ち)
デュース(得点が10対10になって、それ以降)は2点連続先取で勝ち。
※ゲーム間及びゲーム中(3ゲーム目はどちらかに5点入った後1回のみ)のチェンジコートを行う。
- 2 最初のサービスはロジャンケンを行い、勝った人がサーブまたはレシーブを選択する。負けた人はコートを選択する。サービスは2本ごとに交代する。デュースの場合は1本打つごとに交代。
- 3 副審がボールを渡し、サービスは守備コートにボールを置く。完全にボールから手を離し、審判が静止を確認。審判が「プレイ」と言った後、サーバーは「行きますよ」と声をかけ、レシーバーの「はい」の返事を待ってサービスする。
※「レシーバーのはいの返事」から「サービスする」まで……5秒以内
- 4 サービスは右側から相手の右側へ打つ。
※ただし、打球が相手の守備コートの左側に行き、相手がレシーブしたときは有効。(そのままプレーを続ける)
- 5 サービスボールがネットに触れたときはミスとなり相手に得点が入る。
- 6 サービス以外はネットに触れても、ネット下を通過すればOK
- 7 ラリー中にボールがサイドフレームに当たった後、相手側コートに入るのは有効。
自コートの守備側のエンドフレームに触れたときはミスで相手に得点が入る。
- 8 サービス時の空振りミスは相手に得点が入る。
- 9 打球が自領コート内で止まったときはミス。(相手に得点が入る)
- 10 ボールを打ったときに、打球音がしない場合も反則で相手に得点が入る。
- 11 コートとラケットの間にボールを挟んで、押し出すように打った場合は反則で相手に得点が入る。
- 12 手首から先にボールが当たっても打球音があれば有効。
(打球音がなければ、相手に得点が入る。)
- 13 手袋は使用しない。アイマスクを着用する。
- 14 打球がエンドフレームに当たった後、そのままコート外に出たときはミスで相手に得点が入る。
打球がエンドフレームに当たった後、守備コート内で一度バウンドし、コート外に出たときは打った方に得点。
(例:エンドフレームに当たったボールがサイドフレームに当たりコート外へ → 打った方の得点)

